陳情第５０３２号
令和４年１１月２５日受理

（件　名）　新型コロナワクチン接種券の送付に際して，注意書きを同封して，接種の結果出てくる危険性への考慮が出来るようにすることを求める陳情

（陳情の趣旨）

東洋経済ＯＮＬＩＮＥの10月26日の記事「日本人は『超過死亡増加』の深刻さを分かっていない」に，「今年１～３月には約42万人が亡くなり，死亡数は前年より約３万8,000人（10％）増えていた。」，「今年１～６月までに，約77万7,000人が死亡し，例年の死亡者数と比べた『超過死亡』は１万7,000～４万6,000人と推定」とある。また，厚労省が「2021年の日本人の平均寿命は女性87.57歳，男性81.47歳で，いずれも過去最高だった前年を下回った」と発表したとある。「平均寿命が前年割れするのは，東日本大震災があった2011年以来」だという。著者は上昌広という医療ガバナンス研究所理事長で医師の方だ。

この超過死亡の原因として，専門家が挙げているのは，新型コロナウイルス感染による直接死や医療逼迫，外出抑制の影響，経済的な困窮などだが，上昌広医師は「日本のコロナ対策は科学的に合理的ではない」からだとしている。

興味深いのは，日本を含めて世界各国の超過死亡率が急激に大きくなったのは新型コロナワクチンの普及と同時であることだ。そして，上昌広医師は新型コロナワクチンとの関係性については触れていないし，ワクチン接種を控えるべきだとも述べていない。しかし，同時に，ワクチン接種をするべきだとも述べていないのだ。

厚労省を始めとして，マスコミに登場する医療関係者のほとんどがワクチン接種を勧めるが，上昌広医師はそう言っていない。

上昌広医師の意図が何であるかは明確には分からない。しかし，日本を初めとした世界各国で超過死亡率が大きくなりだしたのは新型コロナのｍＲＮＡワクチン接種開始以降のことであることは事実だ。

更に，新型コロナのｍＲＮＡワクチンの危険性を述べる本が日本を初めとして，世界中で多数出版されている。査読済みの論文でその危険性を述べたものも既に複数出ている。これらのことは，ｇｏｏｇｌｅで引いてもなかなか出てこないが，ことなる検索エンジンで検索すると直ぐに出てくる。

新型コロナのｍＲＮＡワクチンは，スパイクタンパクを注射する。この結果，人間細胞がその表面にスパイクタンパクを造るようになり，それに反応して抗体が出来るので，ワクチンによる重症化予防ができるとされている。しかし，このことは同時にスパイクタンパクを表面に持った人間細胞が免疫細胞から攻撃されることを意味している。スパイクタンパクは血管の内皮細胞に感染しやすく，結果的に毛細血管に血栓ができたり，心筋細胞が傷ついたりする。この結果，ブレインフォグと呼ばれる脳機能障害や突然死が発生する。

更に，ｍＲＮＡワクチンによって免疫機能が低下すると指摘する論文が数多く出てきている。いわば，新型コロナウイルスは空気感染するＨＩＶだというものと同じで，新型コロナのｍＲＮＡワクチン接種をすると，長期的に免疫機能が低下し，数年後に免疫不全になるというものだ。ＨＩＶ感染当初は軽い風邪のような症状が１週間程度あるだけで，その後の数年間は全く無症状であり，栄養不良などをきっかけに免疫不全が表面化するという。新型コロナについても同様な推移を辿る可能性が高い。

また，この11月15日，オーストラリアの保健当局はコロナワクチンの５回目接種（３回目の追加接種）を奨励しないことを発表している。

以上の趣旨により，下記のことを陳情する。

記

１．新型コロナワクチンの接種券送付時に，ワクチン接種開始以降，世界的に超過死亡率が大きくなっていることを記載した注意書きを同封すること。

２．超過死亡率の増加だけでなく，血栓の発生や免疫の低下など，短期，長期の危険性が指摘されていることを記載すること。

以上